
[成果情報名] アスパラガスにおける高品質多収のための整枝法

[要約] 半促成アスパラガスでは、親茎を立茎開始後60日目頃に1次側枝を20本確保できる高さで摘心し、2次側枝を8月上旬まで全て間引く整枝法により、畦上の採光が良好となり収穫茎の緑色が向上するとともに、夏秋芽および春芽の収量ならびにL級以上の収量が高位で安定する。

[キーワード] アスパラガス、整枝、側枝管理、緑色向上、高収量

[担当部署] 筑後分場・野菜チーム

[連絡先] 0944-32-1029

[対象作目] 野菜

[専門項目] 栽培

[成果分類] 技術改良

[背景・ねらい]

アスパラガス栽培では、茎葉の過繁茂による収穫茎の緑色低下や斑点病の発生を抑制するため、親茎主枝を高さ130cm程度で摘心するが、最適な摘心時期および収量が高位で安定する1次側枝の必要本数は明らかでない。また、収穫茎の緑色向上のため2次側枝の間引きを行っているが、収量への影響については知見がない。

そこで、親茎摘心時期、1次側枝の本数および2次側枝の間引きが、夏秋芽の収量および緑色ならびに翌年春芽の収量に及ぼす影響を明らかにし、収量、品質ともに向上する整枝法を確立する。

(要望機関名 : 南筑後普 (H13))

[成果の内容・特徴]

- 1 . 親茎は、立茎開始後60日目頃（親茎は先端が垂れて、擬葉が完全に展開した状態）に1次側枝を20本確保できる高さで摘心すると、夏秋芽および春芽の収量ならびにL級以上の収量が高位で安定する（図1、図2）。
- 2 . 1次側枝を20本確保して親茎を摘心すれば、2次側枝を8月上旬まで全て間引いても夏秋芽および春芽の収量ならびにL級以上の収量が低下しない（図2）。
- 3 . 1次側枝を20本確保して親茎を摘心し、2次側枝を8月上旬まで全て間引くと、うね上への採光は親茎を低く摘心して2次側枝を放任にした時と同等に良くなり、収穫茎の緑色が向上する（図3、図4）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 . アスパラガスの高品質安定多収技術として栽培の手引きに掲載して活用できる。
- 2 . 親茎は、成茎時の直径が12～13mmのものをうね1m当たり10本程度立てる。
- 3 . 2次側枝の間引きは8月上旬までとし、その後は9月以降の株養成に備えて放任とする。また、1次側枝から発生する3次側枝は、間引かずに放任とする。
- 4 . ハウスの大きさにより1次側枝が16本以下しか確保できない圃場では、収量を確保するため2次側枝は間引かず放任とする。

[具体的データ]

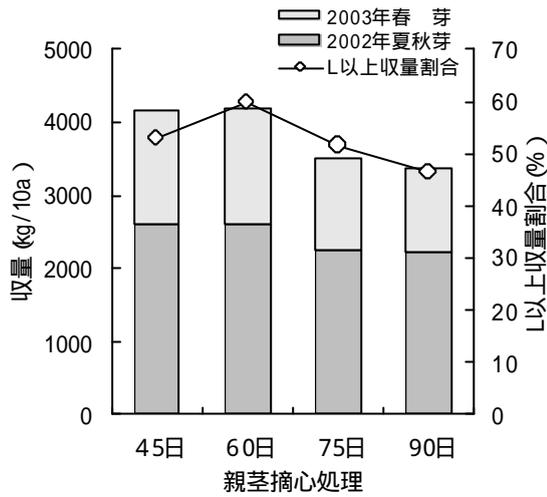


図1 摘心時期と商品およびL級以上収量

- 注) 1. 収穫期間は、夏秋芽が2002年5月中旬～10月下旬、春芽が2003年2月中旬～4月下旬。
 2. 収量は、規格外品を除いた商品収量。
 3. 横軸の親茎摘心処理の45日は、立茎開始後45日目での摘心を示す。以下同様。
 4. 立茎開始は、2003年4月9日。
 5. 2次側枝は放任。
 6. 親茎は、高さ130cmで摘心し、高さ60cmまでの下枝は除去した。

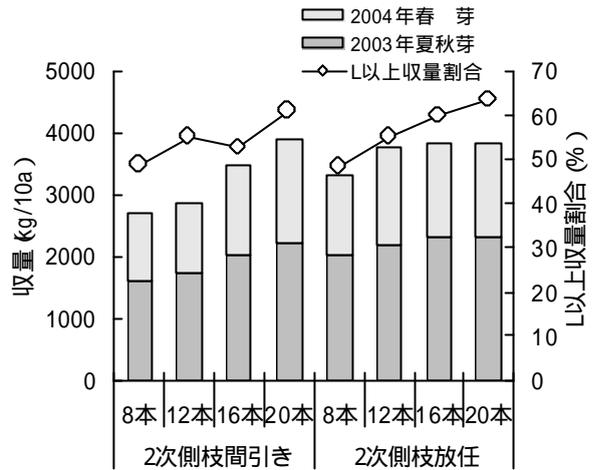


図2 整枝法と商品およびL級以上収量

- 注) 1. 収穫期間は、夏秋芽が2003年5月中旬～10月下旬、春芽が2004年2月中旬～4月下旬。
 2. 収量は、規格外品を除いた商品収量。
 3. 横軸の8本、12本は、それぞれ1次側枝を8本、12本確保して親茎を摘心したことを示す。以下同様。
 4. 立茎開始は、2004年4月9日。
 5. 親茎は、立茎開始後58日目での摘心し、高さ60cmまでの下枝は除去した。
 6. 2次側枝の間引きは8月上旬までで行い、その後は放任とした。

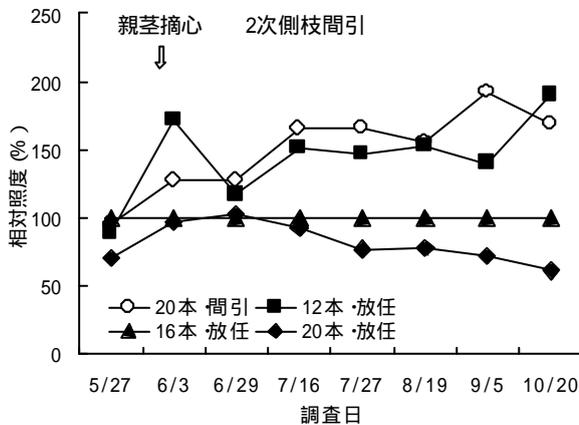


図3 整枝法と相対水平照度

- 注) 1. 水平照度は、晴天日の正午から10分間程度、畦中央地表面を各区7カ所で測定した。
 2. 1次側枝16本・2次側枝放任区の水平照度を100とした時の各区の平均値を相対水平照度(%)で表した。

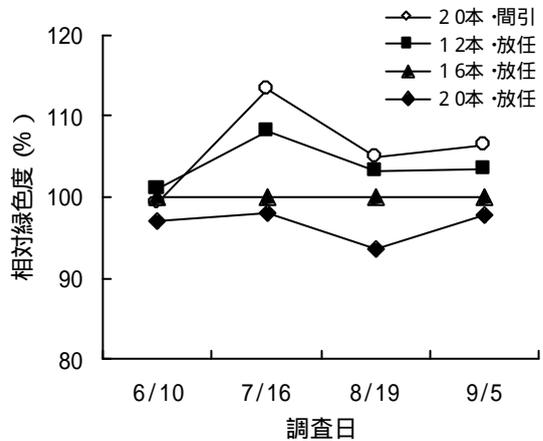


図4 収穫茎下部の緑色度

- 注) 1. 調製後の収穫茎を各区5本ずつ任意に選んでデジタルカメラで撮影し、画像ソフト「フォトショップ」でグリーン値を読みとり平均した。1次側枝16本・2次側枝放任区の数値を100とした時の各区の値を緑色度(%)として表した。
 2. 調査部位は、調製後の収穫茎を上部、中部、下部と3等分した下部。

[その他]

研究課題名：アスパラガス半促成長期どり栽培における安定多収技術

予算区分：経常

研究期間：平成15年度(平成12～15年)

研究担当者：水上宏二、小田原孝治